

## 平成30年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	自治体と教員養成大学による域学連携のあり方モデルの提示 ―衣食住に関わる地域資源を生かした知のネットワークの構築と教育現場におけるその活用―
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・光永伸一郎
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市企画政策部 上越市創造行政研究所 (担当者職名・氏名) 主任・太田栄里, 主任研究員・内海巖
4 事業の趣旨・目的	<p>上越市役所のシンクタンクである上越市創造行政研究所は、さまざまな地域課題についての調査研究を行っており、域学連携(地域と大学との連携)によるまちづくりにも着目している。</p> <p>そこで、本事業では同研究所と協力し、上越市の地域資源、特に衣食住に関わる資源を生かした人的・社会的ネットワークを構築するとともに、その学校教材としての活用について検討する。</p>
5 事業活動報告	<p>雪国ならではの豊かな地域資源を有する上越市であるが、それに対する本学学生の関心や認識は低いように見受けられる。また、地域資源は学校教材としても魅力的であるが、その真価を理解せずに教員になる学生がほとんどのようにも思える。</p> <p>そこで、上越市の地域資源、特に衣食住に関わる資源を改めて調査し顕在化させた。それぞれの地域資源について、文献調査やヒアリング調査を行い、情報を収集するとともに、その特徴を明らかにした。特徴的な地域資源については、報告書「信越県境地域の地域資源情報 2019」にまとめた。</p> <p>また、報告書を利用した演習を行い(参加者:本学学部学生及び大学院生計23名)、地域資源の学校教材としての活用について検討した。</p>
6 本事業で得られた成果	<p>今回の調査にあたっては、新潟県と長野県の県境地域としての上越市にも着目したが、その結果、隣接地域との比較や因果関係といった新たな視点が生まれ、地域資源間の横断的つながりへと研究を発展することができた。結果として報告書には、それぞれのテーマについて、「はじめに」「特徴」「因果関係」「解説」の4項目としてまとめることができた。たとえば、「味噌」の場合、「はじめに」においては越後味噌と信州味噌に関する一般的事項について、「特徴」では材料や作り方など両者の違いについて解説した。「因果関係」ではその違いが生じた歴史的・文化的背景について図示し、「解説」においては図の補足説明を行った。</p> <p>一方、報告書を用いた演習においては、「地域資源を活用した授業実践」を想定し、その場合の教材案についてプレゼンや意見交換を行ったが、結果として、いくつものユニークなアイデアが提示された。</p> <p>衣食住を中心とした生活に深く関わる地域資源が、学校教育において本質的に学ぶべきものであることは、「小千谷縮・越後上布」、「和食」、「白川郷・五箇山の合掌造り集落」などが、無形文化遺産や世界文化遺産に登録されていることから明らかである。よって、教員がアクティブラーニングやグローバル化の教材として地域資源を取り上げることは極めて重要であり、本事業で得られた報告書がそのために有益な情報を提供することは明らかである。</p>
7 その他 (成果物等の名称)	報告書:「信越県境地域の地域資源情報 2019」(全91頁)